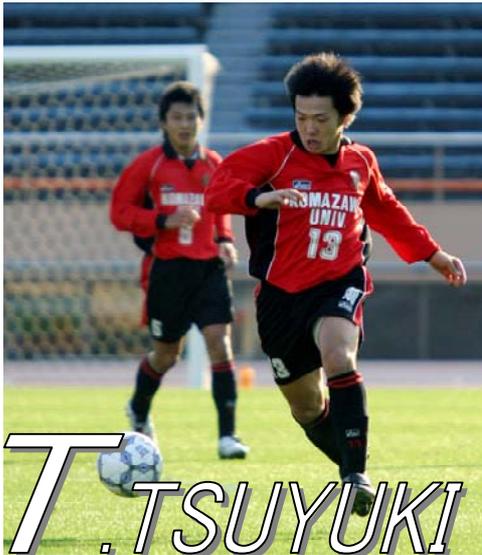


筑城 和人(2年)

激しいプレスと積極果敢なオーバーラップが売りのSB。秋田監督も認める去年の影のMVP。最後まで諦めないディフェンスは相手にとって実に厄介だろう



T. TSUYUKI



Y. OHSAWA

大澤 陽介(4年)

去年は出番の少なかった大澤だが今年は練習試合で、ボランチとして先発出場することが多くみられた。ボランチで開幕スタメンを狙う



R. KOBAYASHI

小林 亮(4年)

FWとGK以外のポジションならどこでもこなせる究極のユーティリティープレイヤー。今年はその器用さを活かし、MFでのプレーが多くなりそうだ
全日本大学選抜(04)

2年目のDFライン

リーグ2位の16失点で終えた昨年のDF陣には抜けた穴もなく、不安要素が少ない。CBで鈴木祐とコンビを組むのは廣井であろう。昨年持ち前の高い身体能力を活かし、相手FWと堂々張り合う姿は、1年生には思えなかった。

両サイドバックは、桑原、筑城に今年も任せることになるだろう。小林亮はその器用さを活かし、MFとしての活躍が期待される。バックアップメンバーにも桐原、松村、新加入の菊地、塚本など多彩な顔ぶれが揃っており、ちょっとしたことでは崩れない強固なディフェンスラインが出来たといえるであろう。

翼を失った中盤は… MF



Y. NAKAJIMA

中嶋 裕太(4年)

去年は途中出場が多かった中嶋。その中でも非凡なパスセンスを披露し、常に自分のプレーをアピールしてきた。今年には激しい中盤の争いの中で、トップ下のポジションを確立したい。

予測不能の中盤

中盤は、昨年のキャプテン中田、背番号「10」を背負った橋本、駒大魂の継承者の田中が抜けた穴をどう埋めるかが課題となる。

右サイドの中田の穴を埋めるに相応しいのは1年生の小林竜樹だ。すでにレギュラーとして多くの練習試合に出場している小林の監督からの信頼は厚い。

一方の左サイドは現時点では、どのポジションもそつなくこなす小林亮が妥当と思われる。不動のボランチは中後。トップ下には中嶋、1年生の八角などがレギュラーを争う。

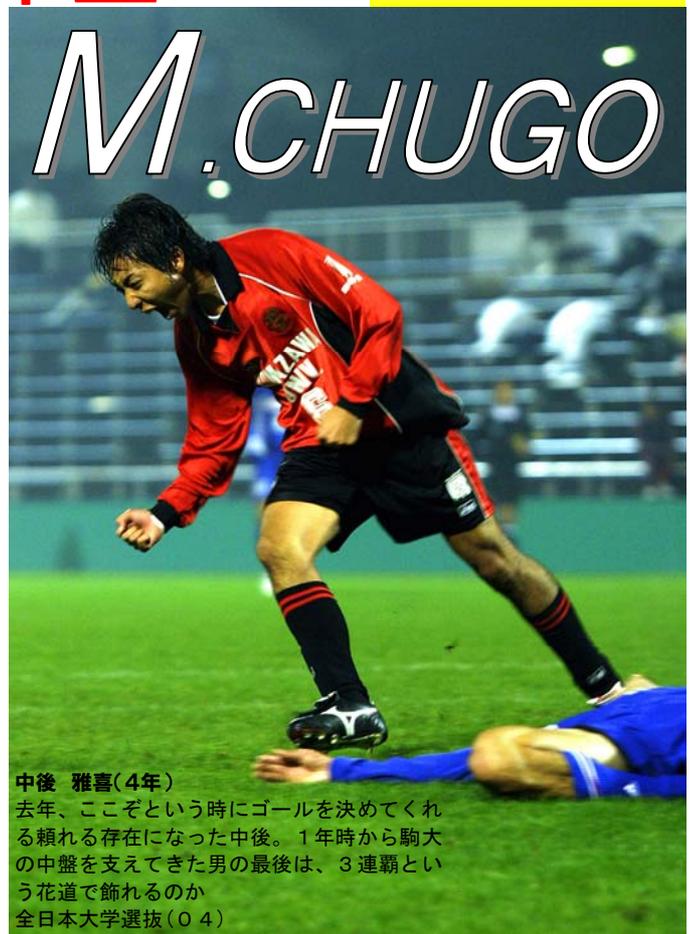
またフォーメーションを従来のダイヤモンドの形ではなく、ボックスの形を取り、底に中後と大澤、あるいは中後と桑原という布陣も考えられる。



T. KOBAYASHI

小林 竜樹(1年)

無尽蔵のスタミナと切れ味鋭いドリブルが武器の期待の新生。また得点感覚にも優れていて、練習試合でもゴールを量産している。中田の抜けた穴を埋める期待がかかる。



M. CHUGO

中後 雅喜(4年)

去年、ここぞという時にゴールを決めてくれる頼れる存在になった中後。1年時から駒大の中盤を支えてきた男の最後は、3連覇という花道で飾れるのか
全日本大学選抜(04)